

平成22年度
交流学習モデル事業実績報告

仙台市教育委員会 学校規模適正化推進室

目次

- 1 交流学習モデル事業について・・・1
- 2 平成 21・22 年度交流学習モデル事業最終報告・・・3
- 3 平成 22・23 年度交流学習モデル事業中間報告・・・7
- 4 平成 21・22 年度交流学習モデル事業アンケート結果より・・・9
- 5 平成 21・22 年度交流学習モデル事業学校からの報告・・・14
 - 作並小学校・大倉小学校
 - 荒浜小学校・東六郷小学校
 - 生出小学校・坪沼小学校
 - 根白石小学校・福岡小学校
- 6 平成 22・23 年度交流学習モデル事業 学校からの報告・・・25
 - 秋保小学校・湯元小学校・馬場小学校
 - 根白石中学校・住吉台中学校
- 7 平成 23 年度交流学習のお知らせ・・・30



交流学習モデル事業を行っています

～ 子供たちのよりよい教育環境を目指して ～

山間部及び沿岸部の小規模校における教育環境のより一層の向上を図るため、学校間で合同授業等を行う取組みを平成 21 年度からモデル的に実施しています。

モデル事業の対象となる学校は、仙台市教育委員会が平成 20 年 8 月に策定した「**仙台市立小・中学校の一定規模確保に向けた実施方針**」の中で、一定規模の基準（小学校：12 学級以上，中学校：9 学級以上）を満たしていないものの、通学距離の基準（小学校：概ね 4 k m 以内，中学校：概ね 6 k m 以内）を超える地域があるため隣接校との統合が難しいことから、統合以外の「新たな方策」を検討する必要があると位置づけた学校（小学校 16 校〈うち分校 2 校〉，中学校 4 校）です。今回の交流学習モデル事業は、「新たな方策」としてスタートしたものであり、今後、交流内容のより一層の充実を図りながら、実施校における教育環境の向上を目指しています。

1 目的

山間部や沿岸部の小規模校の児童・生徒が、授業や学校行事を合同で行うことにより新しい出会いの中から、より多くの仲間とのかかわり合いを持ち、学び合う楽しさや意義を体験するとともに、コミュニケーション力、あるいは多様な人間関係の中での協調性等をより一層身に付けていくことができるような教育環境の提供を目的としています。

2 概要

(1) 事業実施年度

平成 21 年度～

(2) 実施している学校〈平成 21・22 年度〉

- ①荒浜小学校・東六郷小学校
- ②生出小学校・坪沼小学校
- ③作並小学校・大倉小学校
- ④根白石小学校・福岡小学校

〈平成 22・23 年度〉

- ①秋保小学校・湯元小学校・馬場小学校
- ②根白石中学校・住吉台中学校

※住吉台中学校については、一定規模の基準を満たしています。

(3) 実施内容

年度	平成 21・22 年度モデル事業				平成 22・23 年度モデル事業	
実施校	荒浜小・東六郷小	生出小・坪沼小	作並小・大倉小	根白石小・福岡小	秋保小・湯元小・馬場小	根白石中・住吉台中
各校の児童・生徒数	【荒浜小】 7 学級 91 名 【東六郷小】 7 学級 49 名	【生出小】 6 学級 67 名 ※赤石分校の 1 学級 4 名 を含まず 【坪沼小】 3 学級 24 名	【作並小】 5 学級 47 名 ※新川分校 1 学級 7 名 を含まず 【大倉小】 5 学級 30 名	【根白石小】 8 学級 106 名 【福岡小】 6 学級 62 名	【秋保小】 7 学級 51 名 【湯元小】 8 学級 95 名 【馬場小】 5 学級 48 名	【根白石中】 4 学級 94 名 【住吉台中】 13 学級 339 名
実施学年	■6 学年 荒浜小 22 名 東六郷小 13 名 ■1 学年 荒浜小 12 名 東六郷小 8 名	■5 学年 6 学年 生出小 24 名 坪沼小 10 名 □二学年合同	■5 学年 6 学年 作並小 21 名 大倉小 5 名 □二学年合同	■6 学年 根白石小 22 名 福岡小 16 名 ■4 学年 根白石小 19 名 福岡小 10 名	■6 学年 秋保小 8 名 湯元小 15 名 馬場小 10 名	■1 学年 根白石中 22 名 住吉台中 87 名 ■2 学年 根白石中 40 名 住吉台中 113 名
実施教科	■6 学年 特別活動, 総合的な学習 の時間 ■1 学年 生活科・体育 特別活動,	■総合的な学 習の時間 体育 特別活動 外国語活動	■総合的な学 習の時間 体育 外国語活動, (合同給食)	■6 学年 特別活動 総合的な学習 の時間・理科 ■4 学年 理科 特別活動	■特別活動 総合的な学習 の時間 体育 外国語活動	■音楽科
実施回数	■6 学年・6 回 ■1 学年・6 回	■7 回	■6 回	■5 回	■6 回	■1 学年・5 回 ■2 学年・5 回
テーマと授業内容	■テーマ (6 学年) 貞山運河を題材 とした共通体験 活動を通じたコ ミュニケーション 力の向上 ■授業内容 ○児童会行事 「荒浜まつり」 ○貞山堀 E ポー ト体験等 ■テーマ (1 学年) 地域や学校の特 色を生かした体 験活動等を通じ たコミュニケーション 力の向上 ■授業内容 ○児童会行事 「荒浜まつり」 ○海岸での貝拾 い等	■テーマ スポーツや英 語活動を通じ たコミュニケーション 力の向上 ■授業内容 ○特別活動に おいての顔 合わせと合 同の活動 ○体育科にお ける合同の 水泳の授業 ○陸上記録会 に向けての 合同練習	■テーマ 交流活動を通 じて、進んで自 分の考えや思 いを表現し、自 分をみつめる 児童の育成 ■授業内容 ○総合的な学 習の時間 における両校 の地域紹介 ○陸上記録会 へ向けての 合同練習 ○体育科にお いてのバス ケットボー ル ○広陵中学校 での外国語 活動	■テーマ 学校間交流学習 を通じた、かか わり合い、豊か な人間性の創造 ■授業内容 ○修学旅行へ向 けての事前準 備と話し合い ○4 学年と 6 学 年の天文台学 習 ○4 学年から 6 学年までのス ポーツ交流大 会の実施	■テーマ 学校間交流学習 を通じて、多様 な人間関係の中 で適切に自己を 表現する力と他 者を理解しよう とする人間性 をはぐくむ ■授業内容 ○三校で行く修 学旅行へ向け ての話し合い ○陸上記録会へ 向けての合同 練習 ○秋保中学校 での中学校英 語教諭の指導 による外国語 活動	■テーマ 他校との交流 学習を通じた、 音楽性の育成 、豊かな合唱 づくり ■授業内容 ○合唱コンク ールを目指し た練習 ○課題曲を同 じにし、両校 の教員がそれ ぞれ教え合う 機会を設定 ○互いに聞き 合うことで、 小規模校にと つての競い合 う場面の設定

※児童数・学級数は平成 22 年 5 月時点の数値です。

【成果と課題】

- 普段より多くの人数でかかわる授業の中で、相手に自分の考えを伝えたり発表したりする機会をもったことが、コミュニケーション力の向上につながったと考えられます。
- 同じ中学に進学する小学校同士の交流では、入学前に子供同士が知り合えたことで、中一ギャップの解消につながる事が期待できるとの報告がありました。
- 小規模校の教師が他校の教師とかかわることで、指導法を学ぶ機会になりました。また、外国語活動において中学校の教師の指導を受けることは、小中連携にもつながりました。
- 児童間にコミュニケーションを図ったり、切磋琢磨したりする姿が見られ始めた段階であるという意見がありました。今後の継続が大切だととらえます。

平成 21・22 年度 山間部等の学校における 交流学習のモデル事業「最終報告」について（総括）

仙台市教育委員会事務局
学校規模適正化推進室

1 各モデル事業の実施内容にかかる最終報告の概要について

(1) 荒浜小学校及び東六郷小学校の交流事業

実施学年は 1 学年（両校計 20 人）と 6 学年（両校計 35 人）であり、交流回数は各 6 回。基本的に両校を相互に訪問し合って実施したほか、6 学年については昨年度同様貞山堀や海岸公園などの施設等を活用した交流を行ったものである。なお、1 学年の交流については、他のモデル事業での実施はなく、本地域のみでの取組である。

<児童生徒の反応>

1 学年では普段は体験できない活動を通じ、より意欲的に学習に取り組むようになった。また、6 学年は、5 年間変わらない人間関係だった子どもたちにとって新鮮な活動となり、日常の交流につながった。

<実施内容の評価>

1 学年では普段より多人数での学習を通じて、少しずつではあるが集団での行動の仕方を身に付けるとともに、コミュニケーションをとろうとする態度が育ちつつある。6 学年では、児童が自主的に文通するなど活動に広がりが見られ、年間を通じた交流によりコミュニケーション力向上につながった。また、他校と触れ合うことで、大人数の中学校に進学しても大丈夫であるという自信をつけ、中一ギャップの解消につながった。実施回数は概ね適当とし、工夫した点として、1 学年では子どもたちが興味を持てる活動、体全体を使う活動を多く取り入れたこと、6 学年では、E ボートの活動を組み入れるなど互いに協力する内容を組み入れた。

<教員の対応と評価>

会場校が交流学習の内容を考え略案を事前に FAX し電話で打合せを行うなどして、事務的な負担は、両校で分担することで軽減できたとしている。一方で他校の様子や相手校の教員の指導法等について参考にすることもでき、メリットがあったと評価している。

<総合評価>

低学年においては、自己中心の活動が交流のメリットになかなかつながらなかった面があることがあげられたが、6 学年としては、多様な人間とのふれあいがコミュニケーション力をはぐくむことにつながった。以上をふまえ、次年度から、学校として対象学年を 4、5 学年に固定し、2 年連続で交流学習を実施することで、多様な人間関係の中での自己表現する力や他者を理解しようとする人間性をよりはぐくむことにつながる。

(2) 生出小学校及び坪沼小学校の交流事業

本事業は 5・6 学年（両校計 34 人）を対象に 6 回の交流を実施。陸上記録会練習会では、

生出中の体育教師に指導をお願いするなど、小中連携を意識した交流がみられた。

<児童生徒の反応>

1回目の活動では表情が硬かったが、2回目以降は自然と会話が生まれるなど、とてもよい雰囲気での交流が進められた。また、他校の児童の頑張りを素直にほめたたえる姿が見られるようになったとし、中学校での生活を楽しみにしている子どもも増えてきた。

<実施内容の評価>

「他者を理解する気持ちや広い考え方を身に付けさせる」とのねらいで交流を行ったが、児童にとってはよい刺激になった。回数については、多ければその効果も期待できるが、時間や準備の面から考えると概ね適当であった。

また、子どもたち自身が交流することのよさを発見し実感するためには、一部分でも子どもたちの力で創造したり解決したり出来るような設定が必要と考え、交流学习が楽しいだけでなく、交流することによって深く感じたり考えたり、何かを自分たちの力で出来るようになっていたりする活動にしたいと、児童の主体的な活動の必要性が課題となっている。

<教員の対応と評価>

同一学年の教員同士で意見交換ができたり児童の様子を見取ることができたりしたことがメリットとなっている。また、2校が集まって行う担当者会を1、2回に抑え、電話やFAXを活用し業務の軽減に努めた。さらに、この事業を通して児童がよりよい方向へ変容するのであれば、活動の準備はさほど負担とも感じないという意見も見られた。活動実践事例の集積と提出様式の簡略化が今後の課題となっている。

<総合評価>

多くの同一学年の友達と触れ合うことがない児童にとっては、協力することや切磋琢磨することができ、よい刺激となった。加えて、6学年は2年間交流学习を継続したことで友達も増え、中学校でのよい関係作りに結び付いている。これらを支える交通手段の確保、1月に教育センターで行った実施校間での情報交換の場については、大変有効であった。

(3) 作並小学校及び大倉小学校の交流事業

本事業は6学年（両校計17人）単独での交流が1回、5・6学年合同（両校計26人）による交流が3回、作並小が6学年、大倉小は5・6学年が参加した交流（両校計19人）が2回の合計6回の交流を実施。1年間を見通した段階的な計画を立てて実践を行った。

<児童生徒の反応>

2年間に及ぶ交流学习の結果、相手校児童の名前を覚え自然に会話したり接したりする姿が見られるようになり、加えて、励まし教えあう姿も見られるようになった。こうした仲間意識の向上は、中一ギャップの防止につながった。加えて、相手校の教師や児童と関わり交流学习における発表や運動の機会を通して、切磋琢磨してものごとに取り組む姿勢が見られるようになり、相手校の地域や学校を知ること、自校や地域のよさを見つめることができた。

<実施内容の評価>

段階を経た計画により地域の特徴を知り合うことや、多様な考えがあることを受け止めて自

分の考えを発表する機会に結びつくなど、交流による成果が認められ、活動内容は適切であった。実施回数は授業時数確保及びねらいの達成の観点から6回が適切である。また、1年目のカリキュラム内容を充実・発展させることで、担当教諭の負担軽減を図った。

<教員の対応と評価>

相手校職員と連携・協力を深めることができ、指導技術を学びあう機会になった。事務的な処理に関しては、教頭が行うなどの担当教諭の負担軽減について配慮した。校内における本事業の引継ぎに関して、さらに工夫が必要である。

<総合評価>

2年間にわたる交流学习において、相手校児童と進んでコミュニケーションをとるようになったことは、目的を十分に達成できた。また、中一ギャップの防止とスムーズな中学校への移行が期待される。

なお、進学先中学校とのさらなる連携及び他学年での交流についても検討したい。

(4) 根白石小学校及び福岡小学校の交流事業

本事業は6学年（両校計38人）を対象に修学旅行前後の計画から発表活動を中心に交流を実施した。今年度は、4・6学年における天文台学習も新たに加わった。最終の6回目の交流のみ両校の4・5学年も加わり球技大会による交流を行ったものである。

<児童生徒の反応>

就学前の幼稚園や保育所が同じ児童を含め、温かい雰囲気の中で活動をする様子が見られた。いろいろな人間関係や個性との出会いを経験することにより、より深く自分を見つめることができるようになり、学校生活を送る上で大きなプラスになったこと、中一ギャップの解消につながる印象をもった。

<実施内容の評価>

担当職員でのねらいの共有とその具現化が大切であり、工夫した点では、電話・FAXを多用し連絡を密に取るようにした。今後の課題として、次年度は三校での交流となることから、めあてに関する共通理解とカリキュラムの早めの調整が必要である。

<教員の対応と評価>

他校の教職員と交流でき、学ぶことが多く有意義であったこと、得られる効果を考えれば事務的・時間的過重負担とまではいえない。また、教頭や教務主任が計画立案段階に関わるようにしたことも負担の軽減につながった。

<総合評価>

交流に取りかかる前は、負担が多くなり大変ではないかという意識を持った教職員が少なからずいるままのスタートとなったが、児童の成長という大きな財産を得ることができ、効果的取組だった。また、交流学习が児童一人一人の心の成長・学力向上のための方策として位置付けであることを交流校の全職員で共通理解して取り組むことが大切である。

2 「最終報告」の総括について

平成21年度より、山間部等の学校における交流学习のモデル事業を2ヵ年度の実施期間を設けて行ってきた。本事業のねらいである教育環境の向上を図るために、各校において、2年間様々な取り組みが展開されてきた。

各実施校からの報告においては、「多様な人間関係の中で適切に自己表現する力と他者を理解しようとする人間性をはぐくむ」という本事業テーマに近づく子どもの姿が伝わってくる。

具体的な実践内容に関して、修学旅行や陸上記録会関係等行事に関連する内容や、地域の特性を生かし、関連機関の協力や両校の特性を有効に活用したのが見られた。

また、今年度から仙台市天文台での学習も組み込まれたことで4学年、6学年のそれぞれの交流が実施され、保護者への金銭的負担の面から実施を見合わせていた校外学習が、本事業を通して実施することができるようになった。

各校から出されたメリットに関しては、児童のコミュニケーション力の向上を上げている学校が多い。加えて、2年間継続したことで昨年度から実施している学年に関しては、子どもたちのつながりも広がりを見せ、授業時間を離れた日常での交流も見られるようになったとのことである。また、多くの人と関わる機会を通して、大きな中学校への進学に関し安心することができたといった内容もみられた。陸上記録会の練習会や英語の学習が中学校で行われたり、中学校の教師が講師として交流学习の内容に関わったりなど、中学校との連携が進められたことが、中一ギャップの解消につながったとしている。また、中学校区内の隣接する小学校間で交流学习が継続して行われていることもその要因になると考えられる。

教師の負担ということに関しては、この事業を通して児童がよりよい方向へ変容するのであれば、活動の準備はさほど負担に感じないとあり、他校の教職員と交流ができ、学ぶことが多く有意義であったこと、得られる効果を考えれば事務的・時間的過重負担とまではいけない等の意見が最終報告に寄せられた。また、交流に取りかかる前は、負担が多くなり大変ではないかという意識を持った教職員が少なからずいる中でのスタートとなったが、児童の成長という大きな財産を得ることができ、効果的取組だったとしているなどの意見も各校から寄せられた。

今後に向けた課題として、小学校間の交流にとどまらず中学校との積極的な交流や情報交換が必要であるということ、日常の国語や算数などの各教科における学習において、多様な考えを聞きあったり、課題に関して考えを練りあったりする場面の設定も必要であるということが考えられる。

なお、この件については、交流学习担当者会議で提案した内容を受けて、平成23年度の計画に組み入れられている例もあり、交流学习の内容の充実につながっていくものと考えられる。

これらのことを踏まえ、平成21年度に始まった「山間部等の学校における交流学习のモデル事業」が子どもたちに与えた効果を考え、今後はモデル事業として位置づけるのではなく、規模の小さい学校の子どものための教育環境の向上を図るための日常的な活動として、事業を継続していくことになる。今年度出された課題に関しても今後検討を加え、さらによりよい形での事業展開を図って行きたい。

平成 22・23 年度 山間部等の学校における 交流学習のモデル事業「中間報告」について（総括）

仙台市教育委員会事務局
学校規模適正化推進室

1 各モデル事業の実施内容にかかる中間報告の概要について

(1) 秋保小学校・湯元小学校・馬場小学校・秋保中学校の交流事業

実施学年は 5 学年（三校計 32 人）1 回と 6 学年（三校計 33 人）5 回であった。5 学年は陸上記録会の応援練習と顔合わせを行い、6 学年は合同で行う修学旅行の事前計画と事後のまとめ、秋保中学校での英語学習の体験等を行っている。

<児童生徒の反応>

大きな集団の中で始めは緊張した様子が見られたが、そうした中で相手に自分の考えを伝えることができたときの達成感を味わうことができ、また、相手を意識しながら普段よりていねいな説明をすることもできていた。中学校の英語の授業では、顔なじみの ALT と共に和やかな雰囲気の中で活動することができた。

<実施内容の評価>

修学旅行へ向けた事前計画に 2 時間を割り当てていたが、実施内容について難しい面があり、次年度は改善したい。陸上記録会へ向けての練習については、今年度は天候の関係で実施できなかったため、次年度は 2 回に増やし行いたい。実施回数については、5・6 学年とも適当であった。

<教員の対応と評価>

打合せや交流学習当日の相手校の教諭の発言や指導、また、他校の児童の様子を参観することも、6 学年として中学校へ向けた指導をする上でとても参考になった。今後の課題として、幹事校として必要なデータや資料についての引継ぎを検討する必要がある。

<総合評価>

多様な人間関係の中で、適切に自己を表現する力と他者を理解しようとする人間性をはぐくむという事業目標に関して、成果が見られた。交流のための交通費が家庭への大きな負担となっていたため、今後の継続的な支援についての要望があった。

(2) 根白石中学校及び住吉代台中学校の交流事業

唯一中学校間での交流学習であり、1 学年（根白石中 22 名・住吉台中 87 名・計 109 名）、2 学年（根白石中 40 名・住吉台中 113 名・計 153 名）を対象に行った。合唱コンクールに向け、それぞれ 3 回の音楽の交流を実施した。根白石中学校の相手校として参加している住吉台中学校は一定規模校である。

<児童生徒の反応>

初めは緊張して声が出なかったが、次第に声が出せるようになり互いの感想発表もできるようになったとか、互いの合唱を聞きあうことで、より良い合唱に仕上げようとする態度が養われ、歌う喜びを感じることができた。小規模校の根白石中学校にとっては、すべての活動がよ

い経験となり、生徒が大変意欲的に活動していたとあり、住吉台中学校では、一小一中なので人間関係は固定しており、他の学校の様子を感じたり相手校の歌に刺激を受けたりすることができたと評価できる。

<実施内容の評価>

合唱コンクールの課題曲を統一したことで、よりよい合唱に仕上げようとする態度が養われ、大変効果的であった。また、1・2学年それぞれ3回ずつ実施した回数も適切であった。交流を進める上で事前に練習内容や使用会場について、さらにリハーサルの持ち方など細かい点まで打合せを行ったことでゆとりをもって交流に臨むことができ、交流学习を6校時に設定し前後の時間のロスを極力抑えるようにしたなどの工夫をした。今後の課題として、両校の進度調整やより生徒が積極性・自主性を持った授業展開ができるような工夫が必要である。

<教員の対応と評価>

プロの講師を招いたことで指導法に関して具体的に学ぶことができた点と、教師同士の情報交換や、他校の生徒の合唱練習を参観することが有効であった。教師の負担として、音楽担当教師の時間調整があり、教科担任制の中学校の課題となる。

<総合評価>

交流学习を通して互いの良さを感じ、より良い合唱に仕上げようとする態度が養われたことや、生徒が意欲的に活動し合唱コンクール本番を成功に導くことができた点など交流学习事業の効果を大いに認める。加えて、今年度1・2学年の交流であったものを次年度は全学年で行う計画を立て、多様な表現に触れ合うことのよさを広げたい。

2 「中間報告」の総括について

平成22年度から開始した2つの地域での交流事業に関しては、1年間実施しての結論となるが、一定の効果があつた。日ごろ少ない人数の中で過ごす児童や生徒にとっては、多様な人間関係の中での様々なかかわりから、多くのことを学ぶ機会になった。

交流学习を実施しての具体的なメリットとしては、相手を意識しながら、ていねいに話す意識はぐくまれたことに加え、伝えることができたときの達成感を味わうことができた。普段の学校生活ではない、よい意味での緊張感をもたらした効果だと考えられる。

また、音楽科の合唱に取り組んだ中学校では、少人数の学年では体感することのできない合唱を聴き合うことや多くの人数の中で歌うことが実現でき、その後の学校生活に大きな効果をもたらした。さらに、教師側では、これまでの交流学习での実践と同様に、他校での合唱指導の様子を見ることで、その指導法に関してなど学ぶことが多かった点もある。

以上のことから、交流学习に初めて取り組んだ学校においてもその効果が認められており、今後も継続しその効果をより大きなものしていく必要があるととらえる。また、昨年度まで小学校間でのみ行われていた交流学习であったが、今年度中学校間での実施があり、なおかつ相手校がいわゆる「一定規模校」の場合でも、その実施方法を工夫することで、小規模校はもちろんだが、加えて相手校に関しても生徒に一定の成果があつたと考えられる。今後、移動に関する時数について、また、実施するうえでの具体的な連絡方法など改善すべき点もいくつか上げられるが、交流学习がもたらした成果を考え、適宜調整を行いながら次年度の実践を進めていきたい。

「平成21・22年度
交流学習モデル事業」
アンケート結果より

「平成 21・22 年度交流学習モデル事業 アンケート結果」より

<アンケート実施対象校>

平成 21 年度

	荒浜小	東六郷小	生出小	坪沼小	作並小	大倉小	根白石小	福岡小
6 年生	21 名	14 名	14 名	5 名	13 名	7 名	13 名	7 名
5 年生	-	-	11 名	4 名	14 名	-	-	-
児童計	35 名		34 名		34 名		20 名	

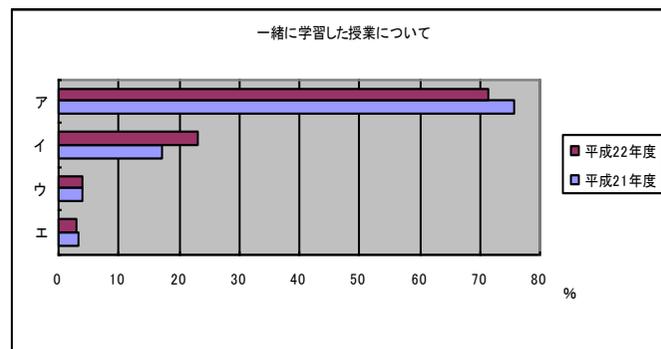
平成 22 年度

	荒浜小	東六郷小	生出小	坪沼小	作並小	大倉小	根白石小	福岡小
6 年生	23 名	14 名	11 名	4 名	14 名	3 名	23 名	16 名
5 年生	-	-	13 名	6 名	-	2 名	-	-
児童計	37 名		34 名		19 名		39 名	

6

■ 交流学習実施校の児童を対象に行ったアンケートから各校に共通している質問項目に関して一部抜粋したものになる。

1 みんなと一緒に勉強した授業や活動は楽しかったですか。



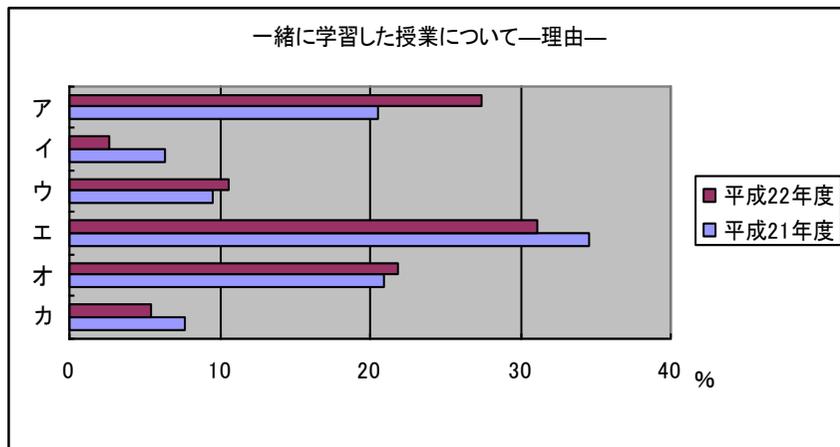
ア：楽しかったと思う

イ：どちらかという楽しかった

ウ：どちらかという楽しくなかった

エ：楽しくなかった

2 楽しかった理由はどれですか。



- ア：普段よりたくさん的人数で勉強できたから
- イ：普段よりたくさん先生の先生がいて、丁寧に教えてもらえたから
- ウ：学校では出なかった意見や考えを他の学校の友達に聞いたから
- エ：新しい友達ができただから
- オ：新鮮な気持ちで活動することができたから
- カ：その他

※カ：その他の内訳は以下に示すとおりである

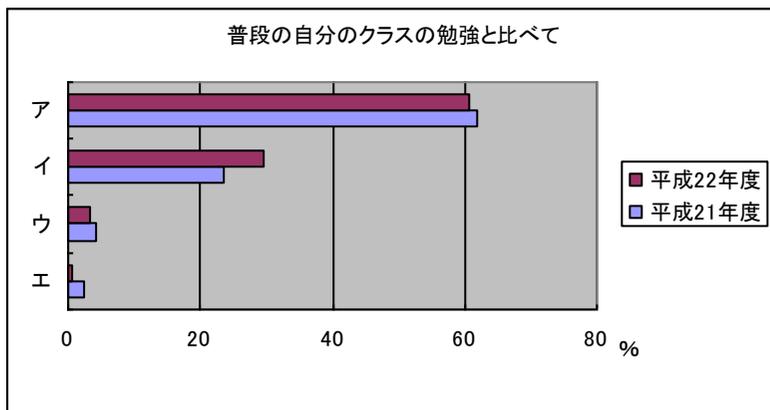
<21 年度>

- ・他の人の発表を聞いたから
- ・グループ別行動などを通じて人とより仲良くなれたから
- ・友達と仲良くすることができたから

<22 年度>

- ・野球で仲良くなった友達と活動できたから
- ・久しぶりに会ってどんなものを行っているか見れたから
- ・一緒に勉強することで楽しく、仲良くできた
- ・みんなで話したりできるから

3 みんなと一緒に勉強したグループ活動や発表活動では、いつも自分のクラスだけで勉強しているときと比べて良かったと思いますか。



ア：よかった

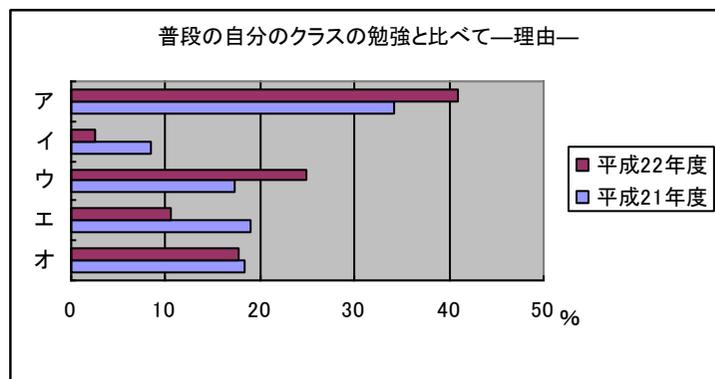
イ：どちらかというよかったと思う

ウ：どちらかというよくなかったと思う

エ：よくなかった

11

4 「良かったと思う」「どちらかという良かったと思う」と答えた人にお聞きします。その理由はどれですか。



ア：普段よりたくさんの人数で勉強できたから

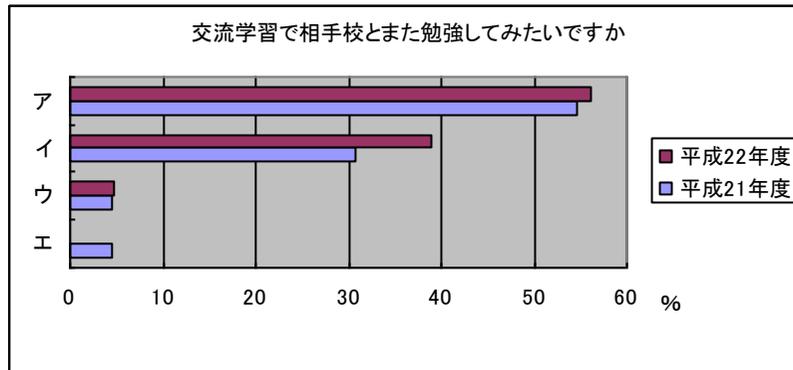
イ：普段よりたくさんの先生がいて、丁寧に教えてもらったから

ウ：学校では出なかった意見や考えを他の学校の友達に聞いたから

エ：他の学校の人に自分の考えを伝えるために普段以上に工夫したから

オ：新鮮な気持ちで考えることができたから

5 また、他の小学校のみんなと勉強してみたいと思いますか。



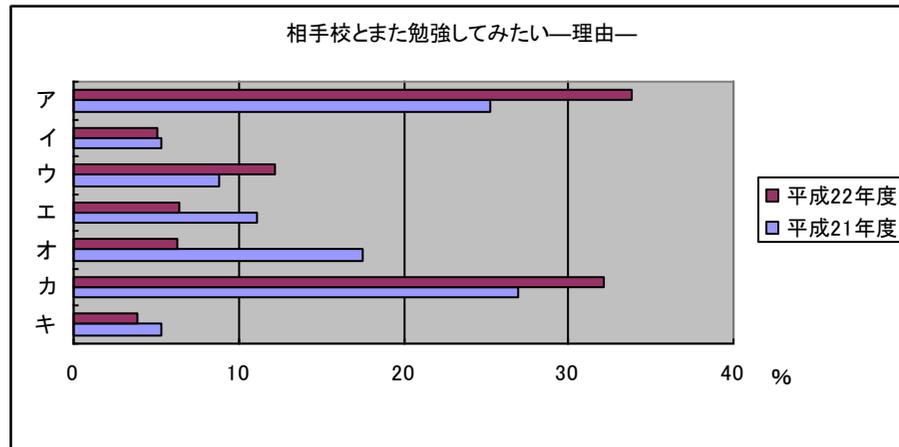
ア：回数をもっと増やしてやってみたい

イ：今のままの回数でやってみたい

ウ：回数を減らしたい

エ：やりたくない

6 そう思った理由はどれですか。



ア：普段よりたくさん的人数で勉強できたから

イ：普段よりたくさん先生の先生がいて、丁寧に教えてもらったから

ウ：学校では出なかった意見や考えを他の学校の友達に聞いたから

エ：他の学校の人たちの走り方や泳ぎ方、歌い方を見ることができるから

オ：普段よりたくさんの人たちと競争できて楽しいから

カ：普段はできない学校の外での活動ができるから

キ：その他

※キ：その他の内訳は以下に示すとおりである

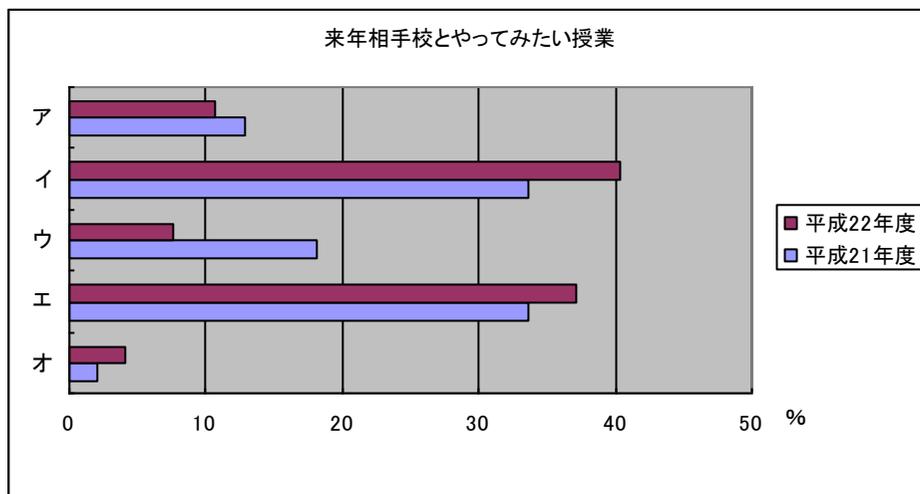
<21年度>・人数が多いので、交流が楽しかった

- ・増やしたくも減らしたくもないから
- ・新しくできた友だちともっと仲良くなれるから
- ・野球で仲良くなった友達と活動できたから

<22年度>・仲良くなるかもしれないから

- ・相手校の人と仲良くできたから
- ・中学校で一緒になるから
- ・今の回数がちょうど良いから

7 来年他の小学校のみんなと一緒にやってみたい授業や活動があるとすれば、それはどういう内容がよいですか。



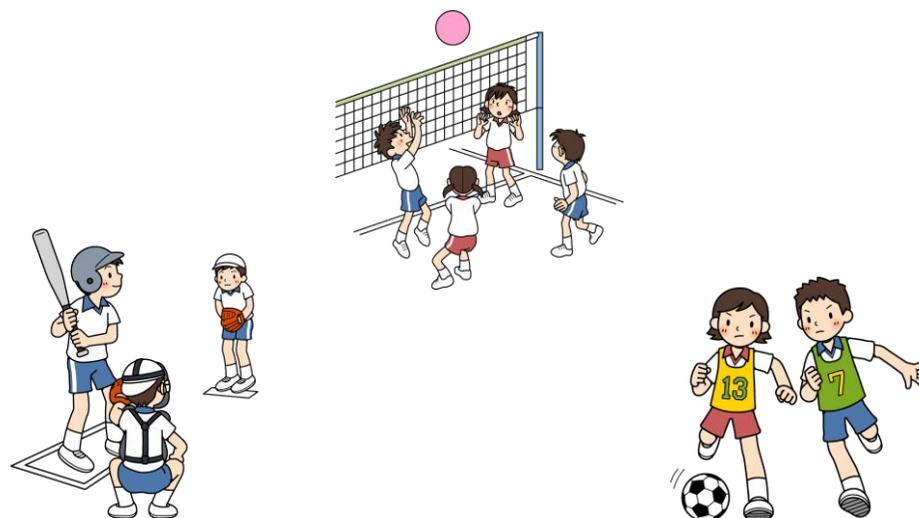
ア：算数，社会，図工，家庭科などの授業

イ：混合チームを作って何かを調べたり，一緒に体験したりする活動

ウ：運動会，学芸（学習発表）会などの学校行事

エ：ドッジボール大会などのイベント

オ：その他（サッカー，調理実習など）



平成 21・22 年度 交流学習モデル事業

- 作並小・大倉小
- 荒浜小・東六郷小
- 生出小・坪沼小
- 根白石小・福岡小

1 実施内容の概要について

- ・大倉小5・6年生との交流活動を通して、進んで自分の考えや思いを表現し、自分を見つめる児童の育成を図ることを目標にし、作並温泉や大倉ダムなど地域素材を活用した体験学習や、広陵中学校での合同体育、英語の授業参観など、年間計6回の交流学習を実施した。

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- ・仲間意識が増し、互いの個性を理解して行動できるようになった。また、人数が多いことに順応した活動と対応ができるようになった。
- ・広陵中学校において合同体育や英語の授業参観を実施したことにより、中学校の先生や生徒とかわりをもつことができ、進学への期待感をもたせることができた。

【課題】

- ・子どもの活動自体に明らかな課題はない。ただし、やむを得ないが、移動時間が必要なことや準備等のため担任の負担が増すことなどの課題はある。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- ・計画、準備等を両校で分担したことにより、運営がスムーズであった。
- ・体験を取り入れた学習活動を行ったことにより、効果的な交流を行うことができた。

【来年度に向けて改善すべき点】

- ・事前の計画や事後の反省を、中学校を含めた3校で実施することにより、さらに効果的な交流学習になると思われる。

4 その他、意見・要望など

- ・学校規模適正化推進室によるご支援により、子どもたちに充実した交流学習を行わせることができた。次年度も、本事業が継続されることを望む。

1 実施内容の概要について

(1) 第1段階【出会いの段階】

- 1 回目：「お互いの地域を知ろう①」（総合的な学習の時間・作並学区内）
→お互いの地域紹介，「こけし工房」見学，温泉体験「ホテル一の坊」，合同給食
- 2 回目：「お互いの地域を知ろう②」（総合的な学習の時間・大倉学区内）
→ふるさとセンター見学，大倉ダム湖でカヤック体験，合同給食

(2) 第2段階【ふれあいの段階】

- 3 回目：「目指せ，陸上記録会①」（体育・広陵中）
→合同での陸上練習，中学校教諭・中学生による指導
- 4 回目：「目指せ，陸上記録会②」（体育・大倉小）
→合同での陸上練習，合同リレーチーム練習，合同チームで記録会参加

(3) 第3段階【かかわり合いの段階】

- 5 回目：「バスケットボール」（体育・作並小）
→バスケットボールの混合チーム編成による，練習・作戦・ゲーム
- 6 回目：「英語で伝え合おう」（外国語活動・広陵中）
→英語の授業参観，中学校に向けて質問コーナー

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- ・少人数で限られた環境の中で過ごしてきたため，内向的な児童が多かったが，交流学習の機会をいただき，知らない人とコミュニケーションを深め，友達をつくることができた。
- ・バスケットボールでチーム対抗ができたり陸上記録会で合同リレーチームを作り互いの学校を応援したりと単独ではできないことが可能となった。
- ・中学校に協力を得ながら陸上練習や英語授業参観等への取り組みを通して，中学校生活に対する不安や疑問などの中一ギャップの解消に大きな成果があった。また，小・中学校が連携することで3校間の距離が縮まり連携が図られた。

【課題】

- ・それぞれの学校の距離が遠く，移動する交通手段が限られており費用が高額なこと，移動に伴う往復の時間が1時間かかることが課題である。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- ・入浴体験やカヤック体験などの体験学習を多く採り入れ，できるだけ子供たち同士が活動をしながらか自由なコミュニケーションできる環境づくりをした。
- ・今年度は，合同給食の機会を双方の学校で持ち，一緒に食事することを通してより児童相互の親交を深めることができたようにした。

【来年度に向けて改善すべき点】

- ・交流活動が，高学年中心に展開されたが，事業内容を工夫して低・中学年も一緒に活動できるような活動を工夫したい。

4 その他，意見・要望など

- ・本事業は，とても意義深い事業だった。各学校の距離は遠いけれども子供たちや教職員が互いに身近な存在になることができた。今後も本事業の継続を熱望する。

1 実施内容の概要について

- 自己紹介（簡単なゲームで）をする。
- 学校行事に参加する。（グループを作って遊ぶ）
- 学校近辺の海に行き、一緒に遊ぶ。
- ポップコーンを作る。
- 自分たちで双六を作って、一緒に遊ぶ。

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- いつもより多い人数で活動することで、自分の考えを言葉で相手に伝える力が高まった。
- 学校の授業だけではできない多様な体験をさせることができた。

【課題】

- 相手校の児童の実態を十分に把握することができなかった。
- 声をかけたり意図的にグループ分けをしたりしたが、一部の児童は自分の活動に夢中になり交流をすることができなかった。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- 4月に年間の予定を立てて、一週間前にファックスで連絡をして活動内容の確認をした。
- 活動終了後、学校に戻る前に次回の活動について口頭で打合せをした。

【来年度に向けて改善すべき点】

- 活動内容を担任が決めるので、負担になることがある。
- 児童の実態を踏まえて、活動内容を精選する必要がある。

4 その他、意見・要望など

- 特になし

1 実施内容の概要について

- 互いの学校紹介
- 冒険広場で創作活動・遊びを通しての交流
- 貞山堀Eポートクルーズ
- 総合的な学習の時間発表会

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- お互いに少人数で濃密な人間関係であったのが、交流をすることで外に目が向き、学級内の人間関係により影響を与えている。
- 新しい友達を得たことで、より大きな学校へ進学することに対して自信をつけた。
- 文通や遊びの約束、相互に学校行事を訪問しあうなど、学校以外での交流も盛んに行われていた。

【課題】

- 交流の回数に制限があること。子供たちの交流への意欲によって、回数を増減できるとよい。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- 地域の資源の活用。（冒険広場・Eポート）

【来年度に向けて改善すべき点】

- バスの利用時間に制限。活動時間を延長できないとか。天候など急な予定変更が難しい。

4 その他、意見・要望など

- 貴重な機会を与えていただき、とてもありがたかった。
- 中学校で一緒になれず、今年度だけの交流に終わってしまうのが残念である。

1 実施内容の概要について

- ・ 特別活動
(太鼓, 鼓笛演奏の発表, 荒浜まつりへの参加)
- ・ 総合的な学習の時間
(焼き板作り, 貞山堀 E ポート体験, 貞山堀についての調べ学習の発表)

2 交流学習を通しての成果と課題について (子どもたちの変容等について)

【成果】

- ・ 荒浜まつりへの参加を通し, 良かった所を自分たちの児童会活動にも生かそうとする姿が見られた。
- ・ 焼き板作りや E ポート体験でコミュニケーション能力の育成を図ることができた。

【課題】

- ・ 同じ中学校に進学できないことを残念に思っている様子が見られた。
- ・ 学校を離れた友達同士のかかわりができたことはよかったが, それに関するトラブルもあり, 指導が必要となることがあった。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- ・ 体験的な活動を増やし, 子どもたちの自主的なかかわりを促した。

【来年度に向けて改善すべき点】

- ・ 総合, 特活だけではなく, 陸上記録会の練習等, お互いに刺激を受けながら学べるような場面設定があればと感じた。

4 その他, 意見・要望など

6 年生については, 行事等により負担が大きいため, 他学年での実施が望ましい。

1 実施内容の概要について

- ・ 第1回（7月 1日）特別活動
軽スポーツを通じた交流（顔合わせ）
- ・ 第2回（7月14日）特別活動
生出小学校の児童会まつりへの参加（坪沼小学校も一店舗を出店）
- ・ 第3回（9月 3日）、第4回（9月10日）体育
陸上記録会に向けた陸上競技の練習
- ・ 第5回（9月15日）学校行事
陸上記録会への参加（合同応援）
- ・ 第6回（11月26日）音楽
合唱、合奏、ダンス等の発表と合同合唱

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- ・ 回を重ねるごとに会話や協力的な行動が増え、他校の児童の頑張りを素直に褒め称える姿が見られるようになった。
- ・ 中学校での生活を楽しみにしている子どもも増えている。

【課題】

- ・ 今年度は陸上記録会に向けた練習を合同で行い、大会での活躍を共に目指すことで交流を図ったが、競技種目に重なりがなく、それぞれの学校ごとの練習とあまり変わらない内容になってしまった。小グループでの活動を行うのであれば、2校の児童が交わりあうような環境を意図的に作っておく必要があった。
- ・ 交流の場の設定や内容の設定などを教師主導で行ったが、子どもたち自身が交流することのよさを発見し実感するためには、一部分でも子どもたちの力で創造したり解決したりできるような設定が必要。交流活動が楽しいだけでなく、交流することによって深く感じたり考えたり、何かを自分たちの力でできるようになったりするような活動にしたい。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- ・ 2校が集まって行う会議を1, 2回程度に抑え、細かい連絡は電話やFAXで行うなど、運営の業務軽減に努めた。
- ・ それぞれの回の活動の担当校を決め運営責任の所在を明確にすることで、担当者が主体的に活動の運営に取り組もうとする意識をもつことができた。
- ・ 陸上記録会への合同参加や学芸会での演目発表など、元々あったカリキュラムに合わせて交流活動を取り入れ、授業時数や活動内容に負担が出ないように配慮した。

【来年度に向けて改善すべき点】

- ・ もっと実感を伴った交流活動となるような内容や設定の工夫。

4 その他、意見・要望など

交流を行うに当たって、交通手段は大きな問題。これからも交通費等を心配することなく活動を進めることができるとうれしい。また、短期間では目に見えるほどの成果は望めないのかもしれないが、活動あって実りなしとならぬよう、この交流活動の目的を確認しつつ進めていくことも重要。

1 実施内容の概要について

- ・陸上記録会に向けて、2校合同の練習を行った。中学校の体育担当教諭を講師とし、中学校進学をも視野に入れた内容であった。
- ・各学校が、学芸会で発表した演目の一部を再度発表し合い、互いに鑑賞した。また、合同で合唱や合奏に取り組んだ。

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- ・集団での学び合い、切磋琢磨など、少人数では、なかなかできないことが可能であった。また、会を重ねるごとに親しみがわき、交流が深まった。

【課題】

- ・移動時間の前後の時間を含めると、45分の活動でも2単位時間が必要である。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- ・交流学習の担当校を4月に決め、その担当教師が案を立て、FAXや電話で連絡を取り合うことで、打合せの回数を極力減らした。

【来年度に向けて改善すべき点】

- ・昨年から2年目ということで、活動内容が似かよっていた。他にもできそうな新たな内容を開発していきたい。

4 その他、意見・要望など

- ・交通費を補助していただけるのは、大変ありがたい。個人負担では、交流学習を継続するのは困難であるので、今後も補助していただけるようお願いしたい。

1 実施内容の概要について

○校外学習天文台 ④7/6

- ・福岡小4年生と一緒に、バスで天文台へ行き、一緒に天文台学習をした。

○スポーツ交流会 ⑤9/28（4～6年合同）

- ・4～6年生同士が福岡小学校に集い、ソフトバレーボール大会を行い、感想発表やエールの交換を行った。

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- ・他の学校の同学年と一緒に天文台学習をすることにより、バスの中や天文台内で多様な考え方にふれながら、コミュニケーションを深めることができた。
- ・4～6年生がスポーツ大会を通して交流し、楽しく競うことができた。

【課題】

- ・4年生にとってスポーツ大会のソフトバレーボールは、ルールを覚えるだけでも大変だったので、コミュニケーションをとる意味でも、内容についてはもう少し検討が必要であった。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- ・天文台学習では、根小と福小と混同のグループ編成にして、交流が深まった。また、バスの中で、学校紹介クイズ等を行い、和やかな雰囲気作りをした。
- ・天文台学習の後に、この交流事業とは別枠で、校外学習（清掃工場見学）に一緒に行き交流の場を設けた。

【来年度に向けて改善すべき点】

- ・天文台学習の時期。学習進度を考え、もう少し後の日程がよかった。
- ・スポーツ交流会は、子どもの実態にあった内容を考える。

4 その他、意見・要望など

- ・家庭の経済的負担を軽減していただく上でも、今回、移動にかかるバス代に予算を付けていただいたことに大変感謝いたします。今後も交流に必要な移動予算の支援をお願いしたいと思います。
- ・小規模同士の交流もよいのですが、実態としては、大勢の中で萎縮してしまう子どもたちが多いので、中学校区や分かれていった住吉台小などとの広域交流も取り入れられるよう、計画の立案をお願いします。

1 実施内容の概要について

○スポーツ交流会 ④9/28 (4~6年合同)

- ・ 4~6年生同士が福岡小学校に集い、ソフトバレーボール大会を行い、感想発表やエールの交換を行った。

2 交流学習を通しての成果と課題について (子どもたちの変容等について)

【成果】

- ・ 4~6年生がスポーツ大会を通して交流し、楽しく競うことができた。

【課題】

- ・ スポーツ大会のソフトバレーボールは、ルールを覚えるだけでも大変だったので、コミュニケーションをとる意味でも、内容についてはもう少し検討が必要であった。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【来年度に向けて改善すべき点】

- ・ スポーツ交流会は、子どもの実態にあった内容を考える。

4 その他、意見・要望など

- ・ 家庭の経済的負担を軽減していただく上でも、今回、移動にかかるバス代に予算を付けていただいたことに大変感謝いたします。今後も交流に必要な移動予算の支援をお願いしたいと思います。
- ・ 小規模同士の交流もよいのですが、実態としては、大勢の中で萎縮してしまう子どもたちが多いため、中学校区や分かれていった住吉台小などとの広域交流も取り入れられるよう、計画の立案をお願いします。

1 実施内容の概要について

- 修学旅行を中心とした交流
 - ① 4/28：顔合わせ，②6/18：結団式，③6/24・25：修学旅行
- 校外学習天文台 ⑥10/5
 - 福岡小6年生と一緒に，バスで天文台へ行き，一緒に天文台学習をした。
- スポーツ交流会 ⑤9/28（4～6年合同）
 - 4～6年生同士が福岡小学校に集い，ソフトバレーボール大会を行い，感想発表やエールの交換を行った。

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- 他の学校の同学年と一緒に修学旅行や天文台学習をしたことにより，バスの中や現地での活動，また，天文台での学習の中で多様な考え方にふれながら，コミュニケーションを深めることができた。
- 4～6年生がスポーツ大会を通して交流し，楽しく競うことができた。

【課題】

- スポーツ大会のソフトバレーボールは，ルールを覚えるだけでも大変だったので，コミュニケーションをとる意味でも，内容についてはもう少し検討が必要であった。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- 修学旅行前に，この交流事業とは別枠で，校外学習（縄文の森広場）に一緒に行き交流の場を設けた。
- 単学級同士なので，役割分担したり，相談したりして進めた。

【来年度に向けて改善すべき点】

- スポーツ交流会は，4～6年生が慣れ親しんでいるスポーツが良かった。
- 修学旅行の自主研修で，交流を行うには，子どもたちの事前の打合せ（話し合い）が必要。

4 その他，意見・要望など

- 家庭の経済的負担を軽減していただく上でも，今回，移動にかかるバス代に予算を付けていただいたことに大変感謝いたします。今後も交流に必要な移動予算の支援をお願いしたいと思います。
- 小規模同士の交流もよいのですが，実態としては，大勢の中で萎縮してしまう子どもたちが多いので，中学校区や分かれていった住吉台小などとの広域交流も取り入れられるよう，計画の立案をお願いします。

1 実施内容の概要について

- ・ 6 学年の修学旅行を交流学習で実施しました（事前に顔合わせ会・結団式実施）。
- ・ ソフトバレーボール（2 校の児童をミックスした班編制）を実施しました。
- ・ 天文台学習（4 学年同士・6 学年同士で実施）を実施しました。
- ・ 交流学習の計画にはなかったが、6 学年の「縄文の森」の体験学習をしました。

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- ・ 児童同士の交流と職員同士の交流になりました。中 1 ギャップの解消になると思われれます。
- ・ 経費の補助があり助かりました。（特に天文台学習）。

【課題】

- ・ 来年度も是非補助をお願いしたいと思います。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- ・ 21 年度実施していた修学旅行の研修結果発表会は、時間的なことを考慮して実施しませんでした。
- ・ 互いの学校に出かけての職員の連絡、調整は時間的に困難さがあるので、簡易のものは電話を活用しました。

【来年度に向けて改善すべき点】

- ・ 三校で学校の枠を取り払ったチーム作りをして、修学旅行に向けた交流にしたいと思います。

4 その他、意見・要望など

- ・ 来年度は 3 校（福岡小学校・根白石小学校・実沢小学校）で修学旅行を実施します。また、校外学習も交流が経費的に利点が認められる場合は、市からの補助の有無に関わらず、実施の方向で考えます。

平成 22・23 年度 交流学習モデル事業

- 秋保小学校・湯元小学校
馬場小学校・秋保中学校
- 根白石中学校・住吉台中学校

1 実施内容の概要について

・同じ中学校に入学する秋保三校仲間という基盤を生かし、合同による修学旅行の計画作成や実施、陸上記録会に向けての合同練習会や当日の合同応援、中学校入学への合同ガイダンス実施等、多様な場での交流学習を設定し、互いの考え方や価値観を学び合うことを通して、自分の考えを進んで的確に表現するコミュニケーション能力を高めていく。

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- ・同じ中学校で学ぶ友達と事前に活動できたことが良かった。中学進学前に仲間を知っていることで安心感がもてた。

【課題】

- ・交流学習の内容について検討すべきである。修学旅行の出し物の準備のためだけでなく、修学旅行中に三校合同で赤べこ絵付け体験などを取り入れたい。
- ・理科の地形や社会科の郷土の歴史など、教科で合同で学習できる内容を計画して実践していきたい。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- ・これまで秋保三校で計画立案する幹事校を輪番で実施している実績がある。
- ・今年度は馬場小の6年担任が中心になって交流会の進め方を計画した。

【来年度に向けて改善すべき点】

- ・今年度は修学旅行前に2回交流会を実施していたが、1回に減らして軽減を図り、その代わりに陸上記録会の合同練習会を2回に増やす方向で調整している。
- ・三校合同で陸上競技場での練習会を1回計画することも考えられる。

4 その他、意見・要望など

・実施後の三校での反省会では、他校はこの交流会の時間をどの教科で実施するか悩んでいるようであった。本校では総合的な学習の時間や体育科の年間指導計画に位置付けているが、それぞれの学校での位置付けはどうなっているのか、情報交換を行いたかった。その上で、位置付けも三校で共通化できたらと思う。

1 実施内容の概要について

- ・ 修学旅行に向けてのグループ内交流，修学旅行先での交流会（6年）
- ・ 陸上記録会における交流（応援，顔合わせ）（5・6年）
- ・ 秋保中学校入学ガイダンス（合同外国語活動）（6年）

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- ・ 少人数では味わえない活動ができ，互いに親交を深めることができた。
- ・ 活動の準備の負担が軽減したり，コストを低く抑えられたりできた。

【課題】

- ・ 活動内容に関する学校間での共通認識を図るのが難しかった。
- ・ 修学旅行に向けての準備が子どもたちにとって負担となった。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- ・ 修学旅行のしおりを共通化したこと。
- ・ 修学旅行や陸上記録会での教員の役割分担を明確にしたこと。

【来年度に向けて改善すべき点】

- ・ 修学旅行の交流会の在り方，内容を検討し，子どもたちの負担を軽減する。
- ・ 6年担任だけでなく，5年担任間の協議も必要。データの共有化。

4 その他，意見・要望など

- ・ 特になし

1 実施内容の概要について

- ・秋保，湯元，馬場小学校の3校で，修学旅行（事前指導2回）および陸上記録会に向けた練習会，陸上記録会当日を合同で行っている。
- ・5年生は初回の3校交流を，6年生の陸上記録会練習会のときに行い，顔合わせや陸上記録会での応援練習などをし，陸上記録会にも参加している。

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- ・大きな集団で初めは緊張するものの，親睦を深め，自己表現，司会などの役割を行う中で成長が見られる。
- ・秋保中学校での児童の良好な関係づくりに役立っている。

【課題】

- ・修学旅行では宿泊を伴うため身体的な特徴への互いの理解など，配慮が必要。
- ・3校混合の班で，出し物などの計画・準備を行うのに時間的な制約があった。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- ・幹事校が運営の中心となる。幹事校は輪番で行う。

【来年度に向けて改善すべき点】

- ・3校共通のデータ，ファイルを作製する。また，幹事校ファイルの作製をする。
- ・3校で交流学習に関する共通認識を明文化する。

4 その他，意見・要望など

- ・交通費など家庭への負担があるので，24年度以降も，交流事業の継続または交流学習に関わる補助をいただきたい。

1 実施内容の概要について

- 仙台市立住吉台中学校との交流学習を通して、音楽性を育成し、豊かな合唱づくりを目指す。
- 生徒同士がパート練習を円滑に行い、自主的に練習できるようにする。
- それぞれの学校の合唱の良さを感じ取り、より美しいハーモニーに仕上げる。
- プロの講師（伊深氏）による指導を受けることで曲にふさわしい表現を学び、指導・伴奏の技術向上を目指し、さらに、美しい合唱を仕上げる。
- 学年リハーサルに参加し、互いの良さを感じながら、精一杯表現することの素晴らしさを体感する。
- 本校は各学年単学級の小規模校のため、大規模校との交流を通してより多くの仲間とのかかわり合い学びあう楽しさを体験させ、協調性・コミュニケーション力を高める。

2 交流学習を通しての成果と課題について（子どもたちの変容等について）

【成果】

- 初めは両校の生徒とも緊張して声が出なかったが、1回目の学校紹介の時に、互いの効果を披露するなどウォーミングアップをするうち、声が出せるようになり、お互いの感想も発表できるようになった。
- 住吉台中との交流学習を通して、互いの良さを感じ、より良い合唱に仕上げようとする態度が養われ、歌う喜びを感じることができた。
- プロの講師の指導により、具体的な練習方法が明らかになり、練習のポイントをつかむことができた。指揮・伴奏のポイントも理解でき、技術が向上した。
- たくさんの教師陣に支えられたことにより、自信をもって課題を追求し、意欲的に合唱を仕上げる態度が育成され、生徒自ら、本番を成功に導くことができた。

【課題】

- 第3回（学年リハーサル）の日程が本校の本番直前だったので、講師の方の指導を受ける際に曲想の急な変更を行えなかったことが残念だった。学年リハーサルをもう少し前に設定し、合唱コンクール本番につなげたほうが効果的であった。
- 交流学習を通して、生徒は合唱コンクールに意欲的に臨むことができたが、全体的に受身の姿勢になっていたので次年度は積極性・自主性を高めたい。
- 今年度の住吉台中の生徒との交流学習を生かして、さらに互いに高め合い、豊かな合唱作りを目指したい。

3 実施運営面で工夫した点及び来年度に向けて改善すべき点について

【実施運営面で工夫した点】

- 各校の教頭による時間調整が速やかに行われたので、時間のロスがなく、しっかりと活動できた。
- 音楽家による練習内容や使用会場の要望、リハーサルの持ち方を事前に打合せしたのでゆとりを持って計画を立てることができた。

【来年度に向けて改善すべき点】

- プロの講師と打合せの時間が取れず、交流学习当日に説明を行ってから練習に入ったため時間のロスが生じてしまった。来年度はぜひ事前打合せを行って臨みたい。
- 本校の第1学年は、講師の指導を受けた後、教室での単独練習となり、住吉台中第1学年のリハーサルを見学できなかったため、次年度は見学させたい。
- 交流の時間はなるべく6校時に行い、前後の時間のロスを無くすようにする。

4 その他、意見・要望など

- 小規模校の根白石中学校にとっては、すべての活動がよい経験となり、生徒が大変意欲的に活動していた。次年度は交流の回数を増やし、精神的な成長だけでなくすばらしい合唱を目指してより専門的な指導を行いたい。
- 両校の進度を合わせ、練習のプログラムを詳細に検討し、両校の生徒・教師がより効果的に授業に臨めるよう工夫していきたい。
- 会場校の負担が大きかったと思われるので、深く感謝している。

平成23年度 交流学習のお知らせ

月	平成23年度事業				平成22・23年度モデル事業	
	①荒浜小・東六郷小 (中止)	②生出小・坪沼小	③作並小・大倉小	④根白石小・福岡小・実沢小	⑤秋保小・湯元小・馬場小・秋保中	⑥根白石中・住吉台中
5月						23日【第1回】 〈1学年〉 住吉台中・音楽 25日【第2・3回】 〈2・3学年〉 住吉台中・音楽
6月		9日【第1回】 〈5・6学年〉 坪沼小・特別活動	21日【第1回】 〈5・6学年〉 作並小・総合		2日【第1回】 〈6学年〉 湯元小・総合	7日【第4回】 〈1学年〉 住吉台中・音楽 8日【第5・6回】 〈2・3学年〉 住吉台中・音楽
7月		15日【第2回】 〈5・6学年〉 生出小・特別活動	1日【第2回】 〈5・6学年〉 大倉小・総合	12日【第1回】 〈4学年〉 天文台・理科 19日【第2回】 〈6学年〉 実沢小・体育		4日【第7・8・9回】 〈1・2・3学年〉 住吉台中・音楽
8月						
9月		6日【第3回】 〈5・6学年〉 生出小・特別活動 13日【第4回】 陸上記録会	2日【第3回】 〈5・6学年〉 広陵中・体育 8日【第4回】 〈5・6学年〉 大倉小・体育	5日【第3回】 〈5学年〉 自動車工場・社会 20日【第4回】 〈6学年〉 根白石小・総合	2日【第2回】 〈5・6学年〉 宮城野原・体育 7日【第3回】 〈5・6学年〉 湯元小・総合	
10月				4・5日【第5回】 〈6学年〉 修学旅行		
11月		29日【第5回】 〈5・6学年〉 坪沼小・外国語活動		8日【第6回】 〈6学年〉 天文台・理科		
12月		21日【第6回】 〈5・6学年〉 生出中・総合	1日【第5回】 〈5・6学年〉 作並小・体育 15日【第6回】 〈5・6学年〉 広陵中・外国語・道徳		2日【第4回】 〈6学年〉 秋保中・総合	
1月	年度及び事業の総括(交流学習担当者会議)					
2月	次年度事業の募集					

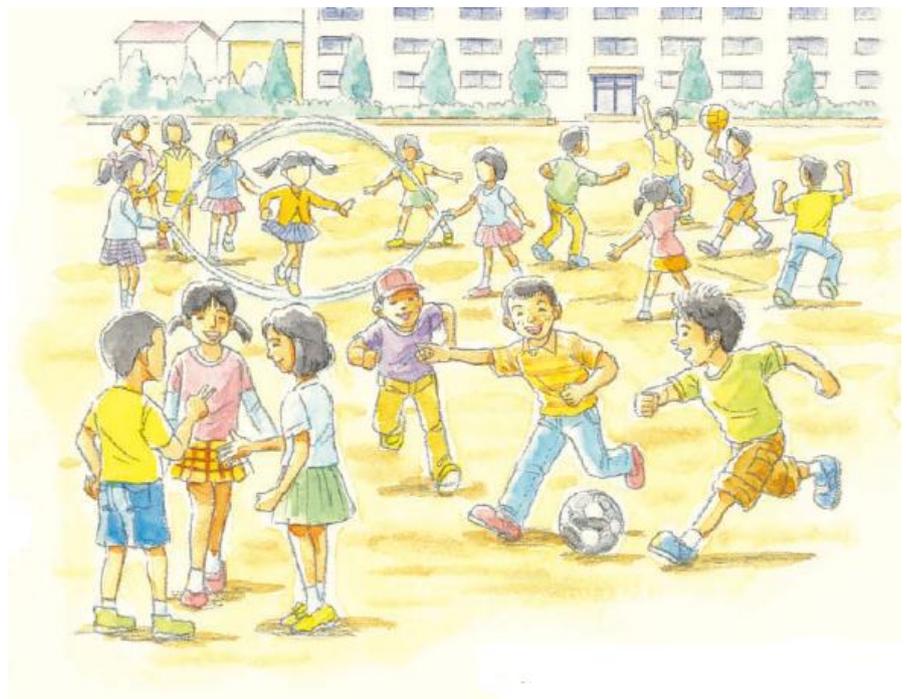
多彩な交流が 子どもたちの世界を広げます

M小学校 Y先生の話
(6学年担任)

ふだんの人数を超えて隣の学校と交流学習を行うことで、「総合的な学習」などにおける子どもたちの学習意欲が高まっていくことが伝わってきました。担任として、子どもたちが6年間同じメンバーで過ごすことをとても心配して



いました。最近、閉塞感がどうしても強まってしまい、互いに干渉しすぎ、言葉もきつくなりがちの様子が見られました。それが、「交流」という外へ目を向ける機会を得たことで、エネルギーが外へ放出される形となり、クラスの間関係もよい状態が続くようになりました。中学進学に向けても、大きな中学校に行くことで担任として不安を感じていましたが、交流学習で他校の人たちと積極的にかかわろうとする姿を見ていると、少し安心感が生まれています。



仙台市教育委員会事務局 総務企画部 学校規模適正化推進室

〒980-8671 仙台市青葉区二日町1-1

電話:022-214-8432 FAX:022-264-4428

E-mail kyo019031@city.sendai.jp